

# 富士塚調査で気付いた盃状穴

野澤 均

## 1. はじめに

富士塚調査を実施している中で盃状穴の施される石造物の存在に気付いた。盃状穴は、凹石などとも呼ばれているようで、まだ用途や成因については定説が無いようである。和光市内に盃状穴が存在しているとは想定していなかったこともあり、いささかびっくりしている。本論では、歴史的・民俗学的にも盃状穴が重要な資料であると考えられることから、簡単ではあるが資料紹介をする。

## 2. 下新倉氷川八幡神社富士塚の盃状穴

### (1) 手水鉢

報告書番号 1-6 手水鉢 (第 1・2 図) に盃状穴が確認された。この手水鉢は、高さ 35cm × 幅 67cm × 奥行 44cm を測る、平面長方形を呈す小形の資料である。正面には丸吉講の講文、右側面には明治 4 (1871) 年 6 月の造立銘が認められる。盃状穴が確認できるのは、上面凹部の縁取り部のみである。

## 3. 浅久保浅間神社富士塚の盃状穴

### (1) 手水鉢

報告書番号 3-6 手水鉢 (第 3・4 図) に盃状穴が確認された。この手水鉢は、高さ 40cm × 幅 77cm × 奥行 46cm を測る、平面長方形を呈す小形の資料である。正面には奉獻の文字が刻まれ、右側面には明治 6 (1873) 年銘と下新倉同行の銘があり丸吉講により造立されたものであることが分かる。盃状穴が確認できるのは、上面凹部の縁取り部のみである。水抜きかもしれないが今回取り上げた。

### (2) 台石

報告書番号 3-49 台石 (第 5 図) に盃状穴が確認された。この台石は、高 18cm × 幅 42cm × 奥行 42cm を測る、平面長方形を呈す小形の資料である。銘文などは確認できなかった。また、浅久保浅間神社は、移転されていることからこの台石がどの石碑に対応していたのかは確認できない。盃状穴が確認できるのは、現在地表に露呈する上面部である。

### (3) 敷石

報告書番号 3-52 敷石 (第 6 図) に盃状穴が確認された。この敷石は、高さ 20cm × 幅 70cm × 奥行 35cm を測る、平面長方形を呈す小形の資料である。銘文などは確認できなかった。また、浅久保浅間神社は、移転されていることからこの敷石が当初どのように使用されていたか確認できない。盃状穴が確認できるのは、現在地表に露呈する上面部である。

## 4. 白子熊野神社の盃状穴

### (1) 鳥居

白子熊野神社の文化 11 (1814) 年造立明神鳥居 (第 7 ~ 9 図) の両側の根巻石上面に盃状穴が認められる。この鳥居は、白子熊野神社の参道に位置するもので、富士塚と直接関連はないものと思われる。今回は、富士塚調査の中で確認した物なので本論で取り上げた。

## 5. まとめ

以上のように、富士塚調査にあたり江戸時代から明治時代初頭にかけて造立された石造物 (5カ所) に盃状穴の存在が確認された。盃状穴の用途に関して国分直一氏は、朝鮮半島からの文化伝播として性シンボル崇拝対象 (註 1) として考察している。国分氏が指摘した神田山石

棺の盃状穴（註2）は第1号石棺とする蓋石の一部に21個が確認されている。山口市内では板石に施された穿孔を持つ石（註3）が20カ所確認されており、興味深い。

もし、盃状穴が石棺設置当初のものであるとするならば、盃状穴の起源は、弥生時代末から古墳時代初頭まで遡ることとなる。

また、能登健氏の「縄文時代の凹石に関する覚書」（註4）では、多孔石として群馬県嵩山遺跡や長野県下高井地方の例を引き「縄文時代における凹穴信仰が極限に達した状態である」として国分直一氏が指摘する盃状穴と同様に性シンボルの祭祀に関わるものとしている。現在確認される盃状穴が、これらの古い時代の盃状穴とどう繋がるのか今後の課題であろうが、非常に興味深いものである。

また、用途の問題も、国分氏や能登氏が指摘するように性神としても崇められているのであれば、安産信仰のある富士信仰に関連する石造物に盃状穴が施されることは、非常に興味深い。

しかし、『歩いてまわる和光市の金石文と石造物』（註5）によると和光市内にはほかにも白子松竹山観音寺や新倉医王山東林寺の手水鉢など、富士塚にかかわりのない場所にも盃状穴があることが報告されている。

近傍でも、井上國夫氏の「話題の石造物の盃状穴について」（註6）に志木市館ノ氷川神社手水鉢、中宗岡の庚申塔、宗岡の石橋に盃状穴の存在が報告され、また新座市内では平林寺の標柱や三本木墓地の地藏菩薩石仏や廻国供養塔・普門品供養塔、帖上墓地の地藏菩薩石仏、大和田観音堂跡地藏石仏などに盃状穴があることが報告されている。井上氏は「神仏を信仰する講中等の多くの人が、巡礼とか巡拝したとき、信仰の確認のために石でコツコツと叩き、やがて穴になったもの」と盃状穴を考察している。

加藤幸一氏は「石造物にみる謎の「盃状穴」（註7）の中で酒井正氏の説に触れ「石造物に小石を打ち続けながら、或いは盃状にこすりながら、さまざまな祈願をした信仰」の痕跡と捉

えている。酒井氏の思い出に語られる「毘沙門天碑」（註8）は、寄居町末野の善道寺門前のものだろうか。もし、そうであるならこの石碑の右側には、庚申塔を挟み3基の如意輪観音像があり女人に関する信仰の一端であった可能性も示唆されよう。

そのほか、筆者の管見に触れた民俗事例としては、辻川季三郎の『石を穿つもの 江戸時代の泉州安産信仰』（註9）がある。辻川氏は、盃状穴を「石盆」と称し安産信仰の産物とし、旧和泉国の事例を神社78カ所（111例）、寺院72カ所（81例）を集成した。面白い傾向として手水鉢や井戸杵など水に関わる192例中135例あり、和光市の富士塚調査でも手水鉢に盃状穴が確認されている。水に関する信仰との関連も考える必要があるだろうか。しかし、手水鉢は参道に設置される石造物で、神社仏閣の参拝路に設置されるものである。このことから、参拝に伴う習俗として穿孔されたものということも、また頷けよう。

このように盃状穴の用途や時代背景の言及問題の解決にはまだまだ行き着けない。ここでは、従来知られていなかった盃状穴が身近に存在していることのみを報告にとどめる。

また、脱稿後、福田敏一の「盃状穴について」（註10）に触れる機会を得た。いくつかの民俗事例の報告や柳田国男氏「石の枕」などとの関連など大変興味深い記述があった。さらには、三浦孝一氏の「盃状穴考」（註11）での盃状穴の分類や学史的な記述など興味深く拝読した。これら重要指摘に対しては、まだ、回答の一端すら持たないのが筆者の現状である。和光市内には、まだいくつかの盃状穴の実例があるようであることから、これらの調査実施後、改めて考察したいと考えている。

#### 【註】

註1 国分直一 1981「Ⅶ盃状穴の系統とその象徴的意味」（松岡睦彦ほか『神田山石棺』山口市教育委員会 pp32～37所収）

註2 松岡睦彦ほか 1981『神田山石棺』山口市教育委員会 pp11～16

- 註3 松岡睦彦 1981「VI山口盆地周辺の盃状穴板石」  
(松岡睦彦ほか『神田山石棺』 山口市教育委員会  
pp24～31 所収)
- 註4 能登健 1978「縄文時代の凹石に関する覚書」(『信  
濃』第30巻第4号 信濃史学会 pp38～43)
- 註5 和光市歴史と文化を学ぶ会編 2013『歩いてま  
わる和光市の金石文と石造物』 和光市歴史と文化  
を学ぶ会
- 註6 井上國夫 2010「話題の石造物の盃状穴について」  
(『郷土志木』第39号 志木市郷土研究会 pp86  
～91)
- 註7 加藤幸一「石造物にみる謎の「盃状穴」」(『NPO  
法人越谷市郷土研究会』ホームページ) ([http://  
bc3456de.sakura.ne.jp/67.pdf](http://bc3456de.sakura.ne.jp/67.pdf))
- 註8 酒井正『石仏画の世界 私家版 さいたまの石  
仏』(希少塔編 総覧 p41) ([https://plaza.rakuten.  
co.jp/itasan31078/diary/?ctgy=26](https://plaza.rakuten.co.jp/itasan31078/diary/?ctgy=26))
- 註9 辻川季三郎 1995『石を穿つもの 江戸時代の  
泉州安産信仰』 私家版
- 註10 福田敏一 2022「盃状穴について」(『東京の道  
祖神塔事典』 株式会社雄山閣 pp294～303)
- 註11 三浦孝一 1990「盃状穴考」(国分直一監修  
1990『盃状穴考』慶友社所収 初出1986『河(別  
冊)』)

【参考文献】

- 国分直一監修 国領駿 小早川成博編 1990『盃状穴  
考』慶友社



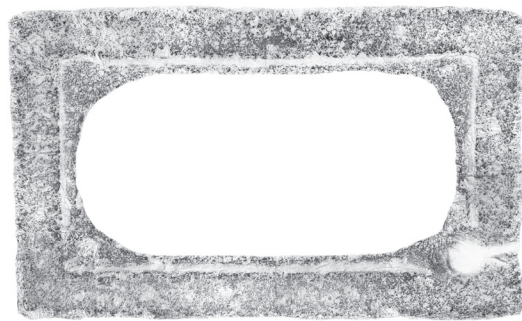
第1図 下新倉氷川八幡神社 手水鉢



第2図 下新倉氷川八幡神社 手水鉢 盃状穴



第3図 浅久保浅間神社 手水鉢



第4図 浅久保浅間神社 手水鉢 盃状穴



第5図 浅久保浅間神社 台石 盃状穴



第6図 浅久保浅間神社 敷石 盃状穴



第7図 白子熊野神社 鳥居



第8図 白子熊野神社鳥居 (右側) 盃状穴



第9図 白子熊野神社鳥居（左側） 盃状穴



第10図 下新倉氷川八幡神社富士塚



第 11 図 浅久保浅間神社富士塚



第 12 図 白子熊野神社富士塚

のざわ ひとし (和光市教育委員会)